

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):工学系研究科航空宇宙工学専攻修士1年

参加プログラム:IARU GSP OXF1 “The Global Challenges of the 21<sup>st</sup> century”派遣先大学:The University of Oxford

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他( )

派遣先大学の概要

The University of Oxford:The University of Cambridgeと並ぶ英国の有名大学の一つ。自然科学の Cambridge、人文・社会科学の Oxford といった認識を持っていましたが、実際どちらの大学も全ての学問に同じように注力しているようでした。

参加した動機

もともと国際交流に関心を持っており、学内の国際交流プログラムに積極的に参加していました。それと並行して学部の中から自分で英語を勉強していて、カリフォルニア大学バークレー校に短期留学した経験もありました。開発援助や関税自由化、集団安全保障のありかたなどがますます激しく議論されており、日本社会は世界の荒波にさらされています。そうした社会の転換期に生きる人間として目先の問題の解決策を考えるだけでなく、21世紀の私たちがどのように生きていくべきか、そしてその中で日本の役割とは何であるのかといった、大きな視点で現在の諸問題をとらえ直したいと思い、参加してみようと思いました。もちろん Oxford 大学で学べるなんてカッコいい!と思ったのも動機の一つです。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

まずは IARU GSP の申請書をきっちり仕上げることです。中でも志望理由と Statement of Purpose は大きな選考材料となるので、丁寧に書いたほうが良いと思います。なぜ自分が留学したいのか、そのために今まで何をしてきたか、そして留学を通してどのように成長したいのかということを文章にすることは自分の頭の整理にもなるので、時間をかける価値はあると思います。自分なりに書けたら友人などに読んでもらってアドバイスをもらうことをおすすめします。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

特にビザの準備は必要ありませんでした。ただし、今後変更の可能性があるので確認してください。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

とくに準備はしませんでしたし、健康ならば必要もないと思います。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協で紹介してもらった AIU の保険に入りました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

航空宇宙工学科・航空宇宙工学専攻では 2013 年現在、短期留学の単位認定は行っていませんでした。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL ibt 101 点でしたが、英語力は完全に不足していました。日本語と同じレベルで議論できる英語力が求められます。強いて言えば ibt115 点くらいの英語力があれば不自由なく学べるのではないのでしょうか。

ちなみに最低要求レベルは Oxford で TOEFL ibt 100 点以上、Cambridge で TOEFL ibt 全セクション 25 点以上でした。東大の募集要項では 80~100 点となっていますが、その上限のスコアがあるので注意してください。どちらもそれなりの点数を要求してきているので、もし足りなければ他の大学のプログラムに参加するのも手だと思います。

あと、特定の専門分野で2年間勉強していることという参加要件もあったように思います。曖昧な要件なので、参加希望の方は応募前に確認してみてください。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

英米文学やヨーロッパの政治、経済、歴史については英語でよく調べてから行った方が良いでしょう。プログラム参加にあたって欧米人の「共通知」に疎いと苦労すると思います。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。

・Tutorial (2000 字のレポート×3 回+レポートの内容に関する教員との議論 1h×3 回)

・International Development Seminar (2h の講義×5 回+講義冒頭にプレゼン発表+3000 字のレポート)

- ・Martin Seminar (1.5h の講義 × 6 回+1h のディスカッション × 6 回)
- ・Group Presentation (練習発表 30 分+発表 30 分+質疑応答 30 分)
- ・History, Politics & Society Summer School Lecture (1.5h の講義 × 15 回(最低 5 回))
- ・更に配られたブックレットには”students are expected to undertake approximately 146 hours of private study during the summer school.”とあり、実際それくらいの勉強時間が必要でした。膨大な内容をこなしましたが、前述のとおり単位申請はできませんでした。

#### ②プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

エッセイの提出が毎週あったのですが、その次の週に tutorial と呼ばれる試問がありました。エッセイを読んだ教員からエッセイの内容の周辺知識などについても質問され、その内容も成績に反映されました。エッセイの内容だけではなく、エッセイを通じた理解の程度に重点が置かれているようでした。正規の学期中も毎週 tutorial があり、平日頃からしっかりと理解していないといけなため気が抜けないようです。勉強の成果物にばかり重きが置かれる日本と対照的で興味深く感じました。

#### ④学習・研究面でのアドバイス

非常によく組まれたプログラムで、やるべきことは常に明確に与えられていました。むしろ、洪水のように流れてくる情報をどのように受け止め、それに対する自分の考えをいかに形成していくかということが大事だと思います。

#### ⑤語学面での苦労・アドバイス等

私は「英語を学ぼう」という気持ちがあっただけですが、容赦なくネイティブレベルの英語力を要求されたため、かなり厳しい留学生活となりました。もっとしっかりした英語力をつけていればなあと思いました。

#### 生活について

##### ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Exeter College 内の寮に宿泊しました。IARU 生は皆同じ Staircase に集められるので、常に一緒に生活しているような感覚でした。宿泊費は40万円弱と非常に高く、Oxford 在生たちからも文句たらたらでした。

##### ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

・食事は毎食カレッジ内の豪華なホールで食べます。朝はいわゆるコンチネンタルブレイクファスト、昼はピュッフェ、夜は簡単なコース料理が出ていました。期待よりもはるかにレベルの高い食事だったので、驚きました。イギリスの食事は日本人の口にはあまり合わないとしばしば聞きますが、少なくとも Exeter College の食事は上等でした。  
・二日に一遍は火災警報が鳴っていました。頻繁に鳴るので警報は形骸化しており、建物が古くて入り組んでいることを合わせると、実際に火災が起きたら相当危険だなと思いました。

##### ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大学街ということで治安はそれほど悪くないように感じました。大学の近くには私立病院がありました。

##### ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空機: 13 万円

授業料・寮費: 55 万円

その他: 12 万円

奨学金: 33 万円

合計: 47 万円

##### ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Santander 銀行から奨学金として約 33 万円いただきました。特に自分で支給機関を探したり申請したりする必要はありませんでした。

##### ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

基本的に週末も一日中課題をやっていたので遠出をする余裕はなかったのですが、川沿いをハイキングしたり、公園にピクニックに行ったり、ボートに乗ったりして楽しんでいました。近所に有名なパブが多くあったので、仲間たちと毎日のように通っていました。

#### 派遣先大学の環境について

##### ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面でのサポートはありませんが、コーディネーターの先生が毎週の面談という形で学習面のサポートをしてくださいました。また、生活面では面倒見の良い博士課程の大学院生2人に全面的にサポートしてもらいました。

##### ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

Exeter College 以外の図書館はほぼ全て入館できます。また、地下にパソコンルームがあり、自由に使えます。自室から無線 LAN に接続できるのですが、数秒ごとに認証ページに飛ばされるので使い勝手はあまり良くなかったです。

ちなみに大学のスポーツ設備は使いません。

#### プログラムを振り返って

##### ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

留学中に経験したことや得たものは非常に多く、世界の流れを理解し、そこでの日本の立場を認識したということ、そして世界中の最優秀層の学生が何を考えているのかということを知れたことなど、挙げ始めればきりがありません。そんな今回のプログラムが将来の歩みに少なからず影響を与えたということは否定できません。本当に良い経験をさせてもらいました。

欲張りをいってしまうと、もっと早い時期、できれば学部3年生あたりでこのプログラムに参加できたら良かったなと思っています。もっと早く問題意識を持って、もっと早く今のレベルにたどり着きたかった。そうすればもっと上の理解にたどり着けたかもしれない。そのためには2年生の冬までに英語を勉強しなければならず大変だろうとは思いますが。

##### ②参加後の予定

プログラムが終わった今、本来の研究を進めるとともに自分が本当にしていくべきことについて考えています。今まで学んできた分野に加えて新たな視点を持たたというだけでも参加の意義がありました。

##### ③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

Oxfordのプログラムはハードで厳しいものですが、まさに日本の代表にふさわしい待遇・環境と発言機会を与えられます。

語学留学では参加者にアジア人が多く、結局アジア人同士が仲良くなって終わってしまう。もちろん中韓の学生たちとアジアの諸問題について語るのも面白いのですが、もっと視点を拡げて、いま世界ではどういったことが起きていて、どのような問題が起きているのか。その問題を解決するためにどのような方策が立てられ、実行されてきたか。その裏にあったイデオロギーとは何か。それらを踏まえて今後私たちがすべきことは何かということを考え、周りに発信することの重要性を感じている人にはぜひ参加してほしいと思います。

#### その他

##### ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

洋書”The meaning of the 21<sup>st</sup> century”など数冊、論文10本弱を読む事前課題が出されます。更に、エッセイライティングに用いるreading listは事前に教えてもらえるので、その内の論文だけでも(20本程度)入手しておくプログラム開始後に慌てなくて済みます。

Tutorial Essayはreading listだけをもとに書くので、ある程度事前に読んでおき、構想だけでも何となく日本で考えておくのと行ってから楽になると思います。せっかくイギリスにいるのに日本でもできるエッセイの執筆や資料探しに長時間費やす必要があり、もったいないと感じました。

##### ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



